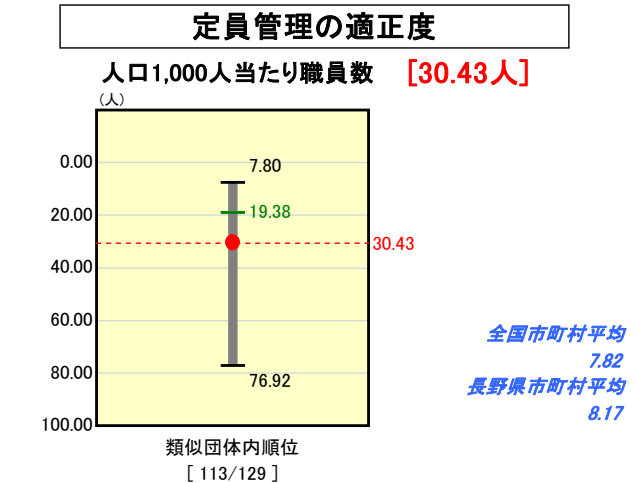
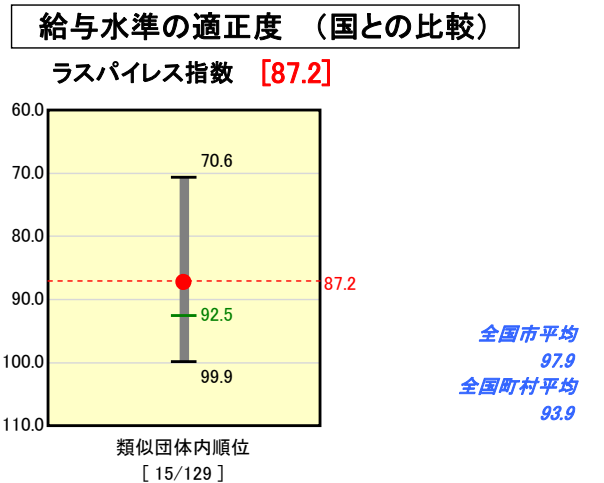
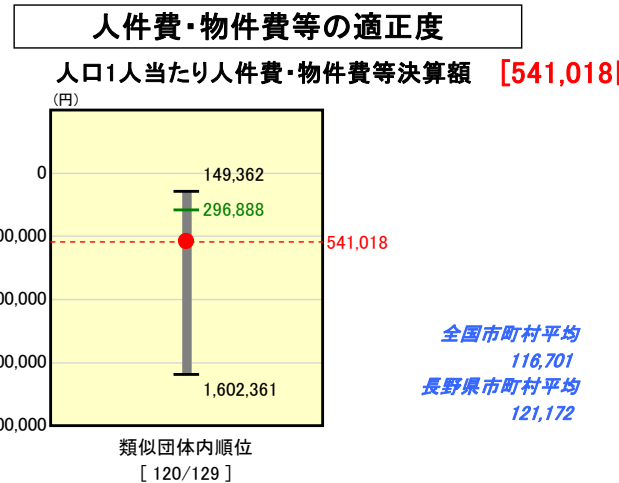
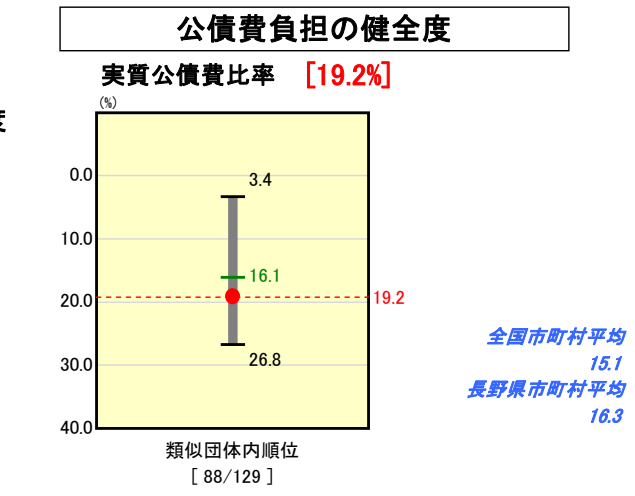
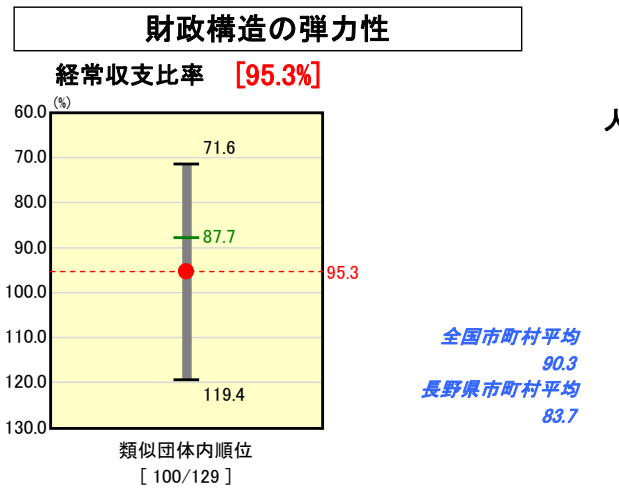
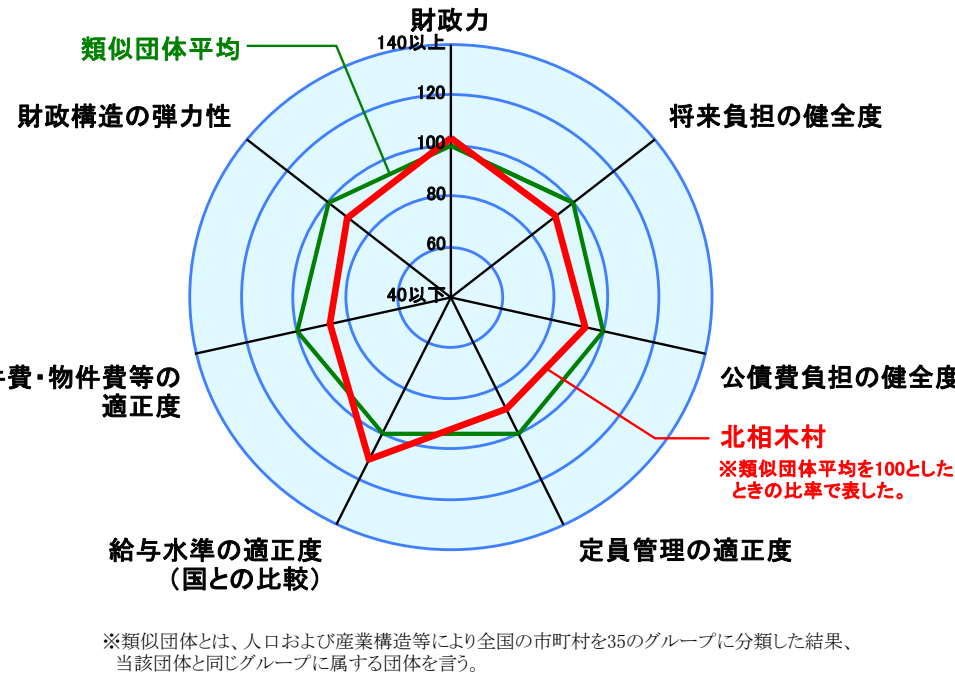
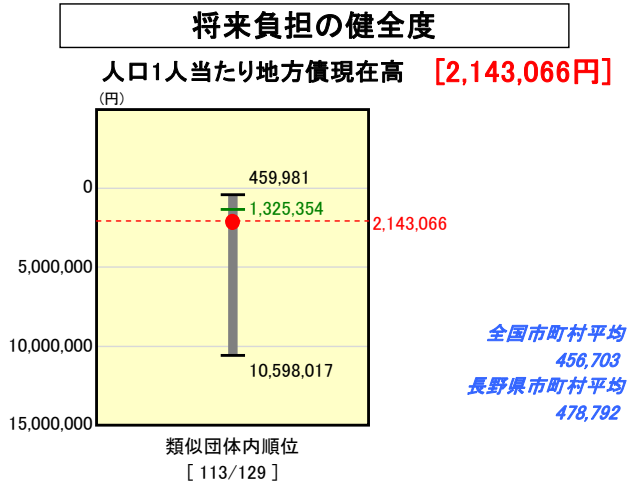
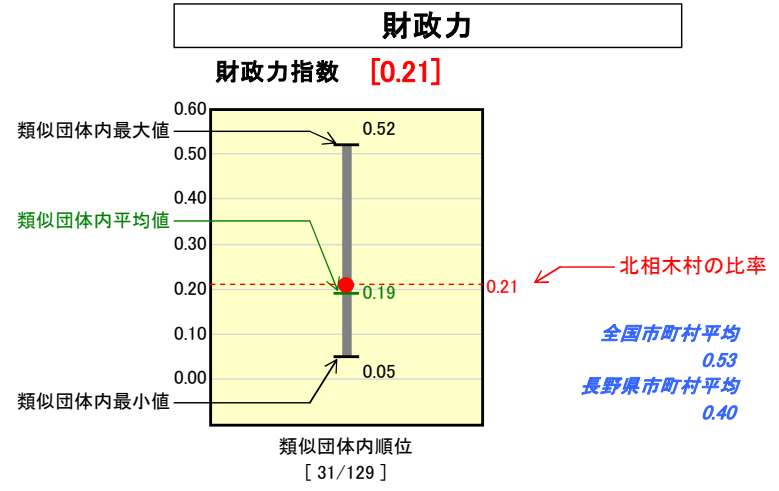


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

長野県 北相木村

人口	920人(H19.3.31現在)
面積	56.26 km ²
歳入総額	1,375,525千円
歳出総額	1,342,675千円
実質収支	32,850千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- ★財政力指数 類似団体平均値から+0.2であり、きわめて標準的である。引き続き投資的経費の抑制・経常経費の見直し等歳出削減に努める。
- ★財政構造の弾力性 昨年度より0.9ポイント上昇。類似団体より7.6ポイント高い水準である。交付税の削減等厳しい財政状況下で投資的経費を極力抑えて、経常的なものが主力となっているため。過疎化・高齢化に伴い農道・林道等改良工事が減少している半面福祉等の経費が増加していることが大きな要因となっている。現状では村民より大きな要望もないので、財政が厳しい今日、数値的には財政の硬直化であるが基金等かんがみても内容的には硬直化ではない。今後経常的な経費を更に削減できるよう見直すと共に、住民にとって真に必要な事業を厳選して実施していきたい。
- ★人件費・物件費等の適正度 経費削減と引き換えに人件費・物件費の削減は日々努力しているところであるが、人口千人未満の村は全国でも22村(04年3月末時点で離島含)しかなく、当然小さい村においては、同じ事業を実施しても村民一人当たりの経費として計算されると高くなってしまふ。定員管理でも解るように昨年より2名ほど人員削減であるにもかかわらず人件費物件費が増加しているのは、人口の減4.2パーセントも一因である。電算経費の増加(リース期間更新)なども大きな要因である。保育園・老人福祉施設等どうしても必要な人員を確保するため、効率は悪くなくても実施する方向。その他の面において削減努力を行う。
- ★給与水準の適正度 人件費の削減・抑制のため類似団体比は良好であるがラスパイレース指数はかなり低いので検討余地あり。今後は、各種手当の点検も含めてより一層の適正化に努める。
- ★定員管理の適正度 昨年に比べ人口1,000人あたりの数値で2名ほど減である。(人口が減っているので実質的には更に減)昨年同様人件費の適正度同様人口比で見ると効率は悪い。保育園などにおいても20名程の園児に対して職員5名と大変効率は悪くなっている。反面サービス面では手厚い対応となっている。今後は、統合してできる事業は極力統合して、少ない人数でも多方面にわたり有効な人員配置で望むようにする。
- ★公債費負担の健全度・将来負担の健全度 昨年の算定方法と若干違うため1.8ポイント増であるが公債費負担適正化計画にも掲載されているように平成21年度までに18%を下回る見込みである。
- ★将来負担健全度 昨年より人口1人あたり25,405円の減額である。人口40人減なのでかなり減額となっている。起債の見直しと基金の有効活用により更なる負担減に努める。